

迫力ある演奏で会場を魅了した吹奏楽部



地域の絆深まる催し 文化祭・ひろば祭り



人気を集めた抹茶お点前

第17回安原地区文化祭・ひろば祭りが10月14、15の両日、地区公民館で開かれ、2日間で延べ約600人がステージ発表や展示を楽しみました。旭町小学校ブラスバンドの

秋を彩るステージ発表や展示



会場が一体となったダンスの発表(上)とにぎわう販売コーナー



演奏で幕を開けました。2日目のステージでは、初出演の松本美須ヶ丘高校吹奏楽部の皆さんが迫力ある演奏で会場を魅了しました。文化祭・ひろば祭りは、公民館とひろばを拠点に活動している人たちが、日ごろの学習や活動の成果を発表する場です。実行委員長の保科守宏さんは「催しを通じて世代間交流が進み、地域の絆がより深まればいいですね」と話していました。催しの様子をグラフで紹介



旭町小ブラスバンド(右)と詩吟の発表





富岡製糸場など見学 安原地区まちづくり協議会親睦旅行

安原地区まちづくり協議会（会長・保科守宏安原地区連合会長）は9月5、6の両日、群馬県内各地を訪ねる親睦旅行をしました。平成26（2014）年に世界遺産に登録された富岡市の富岡製糸場を今回の目玉スポットに、地元27人が参加しました。

同製糸場は明治5（1872）年、殖産興業を打ち出した時の政府が、欧米列強に肩を並べるための経済的ベースとして開業。フランス製の機械を導入、女性工員も同国から招くなど、官営の模範工場として輸出の主力産品である生糸を生産しました。

解説ガイドツアーの説明によると、いまの長野市松代から当時16歳だった横田英という女性が伝習工女に赴きました。帰郷後、洋式の製糸技術を広める指導的な役割を果たしました。

当時の人たちが見よう見まねで焼き上げたという赤レンガでできた東繭置所の前では、先人の苦勞をしのぶように建物に見入っていました。

ハラダ・ラスク、こんにやくパーク、榛名神社をはじめ、信州真田藩ゆかりの沼田市にある吹割の滝なども巡りました。宿泊した伊香保温泉や車中での交流が一番の土産でした。

いちよう並木

「シクラメンの育て方」

原種のシクラメンは地中海沿岸の地域に自生。原種の中から、ペルシウムと呼ばれるものを基に園芸種が誕生しました。

春先まで楽しむために店先でお買い求めの際のポイントを紹介します。できるだけ葉の数が多く、こんもりと中高でよく繁り、花や蕾の多いものを選ぶことです。

暑さが苦手ですので10℃から20℃が適温です。花柄や枯れた葉はこまめに取り除き、株を常に清潔な状態に保つこと。鉢で切るのではなく、球根に近い部分に手を添え、軽く引っ張るときれいに取れます。

開花中も1週間に1度くらいの割合で液肥を与えてください。

直射日光を避けカーテン越しで管理すると長く楽しむことができます。

サクラソウ科シクラメン属の植物で、別名「カガリバナ」。球根を野豚が好んで食べることから「ブタノマンジュウ」とも呼ばれています。

安原地区公民館

信大キャンパス探検隊

②信大医学部地域保健推進センター

第2回目は女鳥羽川沿いの信大東門近くにある2014年に開設した地域保健推進センターです。

探検隊2名は10月17日午後5時に同センターの丸山恵主査を訪ねました。説明によると、地域保健推進センターは、



地域貢献活動推進の拠点となることを目指して毎年春と秋の2回、1つのテーマを4回に分けて健康講座を地域住民に向けて行っています。この講座の特徴は同じテーマを1

回ごとに講師、理学療法士、看護師などがそれぞれの立場で講師となって1時間ほど講義をすることです。

探検隊は同日午後6時から「骨と関節の老化のおはなし」をテーマに、医学部第三内科下島恭弘准教授から「関節リウマチのおはなし」を信大松本キャンパス、旭総合研究棟の階で受けました。

そのあと教授、医学博士の金井誠センター長に話を伺いました。大学の使命は教育と研究ですが、地域貢献に力点を置いた健康講座が、地域住



問い合わせ先
0263-337-2356